

日新信用金庫の若手職員が創出！！ 「親子で学ぼう！お金のセミナー」

ポイント

- 日新信用金庫¹は、地域の親子向けの金融教育イベント「親子で学ぼう！お金のセミナー」を開催した。このセミナーの企画構成や詳細は、「総合企画部トレーニー」という研修に参加した若手職員が設計したものである。
- 本件取組みにより、対外認知度向上という成果のほか、業務運営の効率化や若手職員の能力・モチベーションの向上といった副次的効果も生まれている。
- 本件取組みで蓄積したノウハウは、他金庫にも有用と思料されることから、希望する信用金庫に対して、日新信用金庫から情報共有する意向がある。

1. 背景・目的

日新信用金庫（以下「当金庫」という。）は、人口増加地区である兵庫県明石市に本店を構える。個人若年層の取引メイン化をめぐる競争が激化するなか、当金庫は、子育て世代からの認知度向上や地域貢献活動を通じた競合他行との差別化を図るべく、金融教育イベント『親子で学ぼう！お金のセミナー（以下「セミナー」という。）』を開催することとした。

セミナー実施にあたっては、人材育成面での効果も狙い、セミナーの企画構成や詳細の設計を若手職員主体のプロジェクトチームに付託している。当該プロジェクトチームは公募型であり、当金庫の総合企画部の業務を学ぶ研修『総合企画部トレーニー（以下「トレーニー」という。）』の一環で運営された。

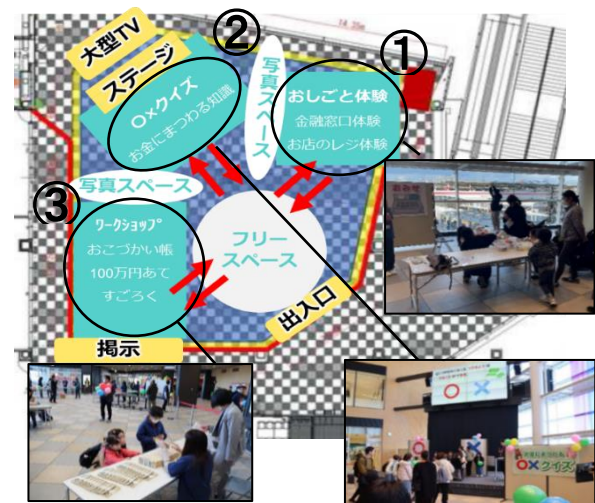
本稿では、セミナー・トレーニーの各概要、成果および今後の展望について紹介する。

2. 概要

＜セミナー概要＞

名称	親子で学ぼう！お金のセミナー
日時	2024年1月13日(土)10時～14時
場所	あかし市民広場
内容	親子向けの金融リテラシー教育等に資する以下3企画を実施 ①おしごと体験 ②〇×クイズ ③ワークショップ
来場者	親子計：400人 (お子様：150人、保護者：250人)
運営者	日新信金役職員：31名 (うちトレーニー参加者：12名) 信金中金神戸支店職員：2名

＜セミナー実施風景＞



¹ 2023年3月末の日新信用金庫の概要は以下のとおり。

預金量：8,125億円、貸出金：3,995億円、店舗数：36店舗、常勤役員数：578人

《トレーニー概要》

名称	総合企画部トレーニー
期間	2023年8月～2024年2月の中で11日間・計7回
場所	当金庫本店
事務局	総合企画部職員1名（ファシリテーター）
参加者	2～5年目の本部・営業店職員（公募）12名、 信金中金神戸支店職員1名
内容	<ul style="list-style-type: none"> 参加者を構成員とするプロジェクトチームを組成し、セミナーの企画・運営を実施 <p>【トレーニー各回の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> キックオフミーティング（1日） トレーニーの趣旨説明、企画のアイデア出し 当金庫が出展する他イベントの視察（1日） 会場レイアウトの勉強、連携予定企業との面談 ブラッシュアップミーティング（1日） 来場者のターゲット・企画の方向性の検討 全体構成・詳細設計・取組みの具体化（5日） 企画詳細・役割分担の検討、教材等制作 セミナー前日準備（1日） セミナー当日に向けた最終確認、会場設営 セミナー当日運営（1日） セミナー概要欄に記載 振り返り会（1日） セミナーの成功要因・要改善点等の共有、 トレーニーで用いたマーケティング知識等総括

<トレーニー実施風景>



3. 成果

セミナー・トレーニー実施の成果として以下の3点が挙げられる。

(1) 対外認知度の向上

セミナーの実施により、来場した親子計約 400 人のほか、セミナー会場周辺の歩行者やセミナーの内容を取り上げたTVニュース・ニッキン記事等の視聴者に、当金庫の地域貢献に資する取組みが認知された。

(2) 業務運営の効率化

トレーニーの実施により、セミナーの企画をプロジェクトチーム形式で検討することができ、短期集中的な実働時間で独創的なイベントを作り上げることができた。

(3) 能力・モチベーションの向上

セミナー・トレーニーの実施により、若手職員の企画・運營業務の遂行にかかる能力とモチベーションが向上した。

【トレーニー参加者の振り返り意見抜粋】

- 「企画業務に必要な、ターゲット像の明確化や集客に必要な要素の洗出し、ファシリテーションをしながらチームでひとつの結論を生み出す過程を学ぶことができました。」（1年目男性職員）
- 「0から企画を作る経験は、入庫以来1番の達成感を得た。今回の経験を活かして、お客様第一を心掛けた提案をしていきたい。」（3年目女性職員）

4. 今後の展望

当金庫としては、想定以上の成果を得られたことから、今後も同様のセミナー・トレーニー（職員公募型のプロジェクト）を継続的に実施する方針としている。

継続実施に向けて、トレーニー最終回において振り返り会を実施し、セミナー・トレーニーの成功要因および改善余地の洗い出し、対処すべき課題の整理、課題解決に向けた施策立案等に取り組んだ。

今後は、立案した施策等を実施することで、後続企画の実効性を高める予定である。

なお、今般の取組みで蓄積したノウハウは、同様の取組みを検討している他金庫にも有用と見られることから、希望する信用金庫に対して、当金庫から情報共有する意向がある。

＜振り返り会の結果抜粋＞

	セミナー	トレーニー
成功要因	<ul style="list-style-type: none"> ●集客面 <ul style="list-style-type: none"> 音響、モニター映像、風船等を用いて、会場周辺にいるターゲット層の注目を集められたこと ●コンテンツ面 <ul style="list-style-type: none"> ターゲット層の関心が高い体験企画を複数実施できたこと ●運営面 <ul style="list-style-type: none"> 各企画の担当人員のほか、遊撃的なポジションの職員を配置したことで、人流に即した来場者対応ができたこと 運営者用のTシャツを作成し、一体感が向上したこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者のスタンス面 <ul style="list-style-type: none"> 発言量が多く、議論が活発だったこと 事務局に答えを求めめるのではなく、活用するスタンスだったこと ●事務局の運営面 <ul style="list-style-type: none"> 3～4人の少人数グループごとで企画を検討することで、各参加者が発言しやすい雰囲気を作ったこと 総合企画部以外の部署や外部企業と連携し、参加者を多面的にサポートしたこと
改善余地	<ul style="list-style-type: none"> ●集客面 <ul style="list-style-type: none"> SNS等による事前・リアルタイム宣伝が不足していたこと セミナー開催時間は午後の方が、集客を見込めたこと ●コンテンツ面 <ul style="list-style-type: none"> おしごと体験企画の来場者数に対してブース数が少なく、来場者の待ち時間が長くなってしまったこと ●運営面 <ul style="list-style-type: none"> 来場者の導線を明確に定めなかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者のスタンス面 <ul style="list-style-type: none"> 少人数グループ間で、企画の検討内容等に関する情報共有がやや不足したこと ●事務局の運営面 <ul style="list-style-type: none"> セミナー実施予算を精緻に積算できなかったこと 今回のトレーニー開催は、当金庫にとって初の試みだったこともあり、参加者の募集段階で、各本店にトレーニーの目的や期待する効果を十分に周知しきれなかったこと

＜ノウハウの蓄積結果抜粋＞

進捗	資料名	担当	タスク	概要	開始日	終了日	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	-	事務局	企画構想	6/6の営業戦略会議にて、新企画にかかる影響を事前にアプロウチの一環として「金融リテラシー教育」の実施を付議。経営陣から具体的な承認あり。企画のノウハウ蓄積等を踏まえ、トレーニー形式で実施することを構想。	6/6	7/3												
2	1	事務局	案議申請	7/3の営業戦略会議にて、金融リテラシー教育にかかるセミナーをトレーニー形式で実施する旨を付議したうえ、トレーニーメンバーの募集を開始。	7/3	7/4												
3	2	事務局	トレーニーメンバー募集	トレーニーメンバー（入庫2～5年目の職員、8～10名程度）を公募する旨の通告を発信。公募期間は概ね2週間。	7/5	7/21												
4	3	事務局	トレーニーメンバー決定等の通知	当初想定を上回る応募があったものの、全応募者が参加できるような企画構成を調整。トレーニーメンバー、キックオフMTGの実施日、事前課題（自己紹介シート作成）の内容を通知にかかる通告発信。	7/24	7/24												
5	-	トレーナー	自己紹介シート作成	キックオフMTGで使用する自己紹介シートを作成し、総合企画部宛メール提出。	7/24	8/10												
6	-	事務局	キックオフMTG用資料作成	自己紹介シートの取りまとめ、ブラッシュアップMTGに向けた課題（ペルソナ・課題設定）のフレーム作成。会場レイアウトのイメージ作成。	8/10	8/28												
7	4	事務局	キックオフMTG実施	事務局からトレーニー一概要を説明した後、トレーニーメンバーの自己紹介を実施。 セミナー実施イメージにかかるプレインストレーションを実施。 ①セミナー対象者のペルソナの共有、課題設定（AISAFモデルにもとづくセミナー実施に向け要検討事項の2点をメンバー個人で検討。	8/28	8/28												
8	-	トレーナー	ペルソナ・課題設定の検討	②セミナー対象者のペルソナ、③課題設定（AISAFモデルにもとづくセミナー実施に向け要検討事項の2点をメンバー個人で検討。	8/28	9/8												
9	-	事務局	にっしん様きめこメッセ視察	神戸国際商業展示場で開催される当金庫主催イベントを視察。当日の会場設営や呼び込み等を勉強したほか、セミナーで連携予定の企業代表者との面談を実施。	9/8	9/8												
10	-	事務局	ブラッシュアップMTG用資料作成	セミナーの実施イメージにかかるプレインストレーションの取りまとめ、ペルソナ・課題設定の取りまとめ、今後やること（案）の書き出し。	9/8	9/13												
11	5	事務局	ブラッシュアップMTG実施	セミナーの大体（ゲーム系・体験系・その他）を検討。 セミナー対象者のペルソナの共有、課題設定（AISAFモデルにもとづく要検討事項）を深掘り。	9/13	9/13												
12	-	事務局	総合企画部トレーニー①用資料作成	イベント企画案の洗い出し・比較案の検討、ToDoリストのフレーム作成。	9/14	10/11												
13	6	事務局	総合企画部トレーニー①	セミナーの全体構成と詳細設計、取組みの具体化。 現場確認、教材づくりに向けた素材集め。	10/12	10/13												
14	-	事務局	印刷物等発注	連携企業にて印刷物等を発注。	10/13	10/13												
15	7	事務局	総合企画部トレーニー②	教材（ビデオ、動画・印刷物等）制作、連携企業との打ち合わせ。当日の役割・役割分担等の検討。事業計画書の市況広場まで提出。リハーサル、広告宣伝開始。	11/13	11/15												
16	-	事務局	印刷物等チェック	連携企業から印刷物（おこごがけ帳、すごろく、スタンパラリー等）の初稿を受領。 事務局中心に内容精査。	11/23	11/20												
16	-	事務局	Tシャツ作成	セミナー当日にトレーニーメンバー・応援メンバーが着用するTシャツを作成。	12/1	1/13												
17	-	事務局	決起集会	●（★）にて、本部総会議場を会場に決起集会実施。	12/14	12/14												
18	-	事務局	前日準備	グループ別に取り組み事項を振り分けを実施。 会場設営のためのレイアウトの確認。当日使用する販促品の作成。会場に持ち込む荷物の整理を実施。	1/12	1/12												
19	-	事務局	会場設営	会場レイアウト図をもとに、新市況広場の前広場の掲示を仮設ながら会場設営を組む。所要時間は3時間程度。	1/12	1/12												
20	-	事務局	当日運営	9時集合、10時開始、14時終了。 当日は3時終了予定だったが、参加者が多かったため、終了時間を延長。	1/13	1/13												
21	-	事務局	会場撤去	新市況広場の担当者の指示を仰ぎながら会場設営を撤去。所要時間は1時間半程度。	1/13	1/13												
22	8	事務局	振り返り実施準備	振り返り会の実施を通知。振り返りシートの提出を依頼。	1/18	1/18												
23	-	トレーナー	振り返りシート作成	良かった点・成功要因など今後に残しておきたい要素、改善点・反省点など工夫できると思った要素、その他、自由意見を記述し、総合企画部提出。	1/18	1/31												
24	9	事務局	振り返り会	セミナー・トレーニーの成功要因と改善余地の洗い出し。対処すべき課題の整理、課題解決に向けた施策立案等。	2/20	2/20												
25	10	事務局	振り返り報告	事務局から目的、実施スケジュール、費用対効果、総評を経営陣に報告。	3/19	3/19												

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。